

事例6：物流倉庫/工場の危険予測や災害時の罹災/安否確認のシステム稼働対策

<p>目的</p>	<p>危険予測、災害発生時における倉庫/工場の状態確認及び罹災/安否確認に必要なシステムの継続稼働 ①監視カメラやスピーカー ②NVRや分析AIユニット ③盤内収容や高所設置</p>
<p>構成</p>	<p>The diagram illustrates the system architecture. On the left, a warehouse/factory (倉庫/工場) contains two cameras (カメラ) monitoring workers. These cameras are connected via a LAN to a server rack (盤内). Inside the server rack, a PoE switch is connected to an NVR and a power supply (電源). The power supply is connected to a BV55REM device. A speaker (スピーカー) is also connected to the system.</p>
<p style="text-align: center;">困りごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保安機器のフリーズや停電で避難誘導ができず、倉庫/工場の状態や、作業人員の安否ができず、現場の安全確保が維持できなくなる ・各機器がフリーズした際、リポート復旧作業のため現地まで行く必要があり、早期復旧ができない ・保全のため盤内設置の必要があるが、鉛UPSはサイズ大きく、重量もあり盤内に入らない 	<p style="text-align: center;">期待される改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停電時でも、倉庫/工場の状態及び安否状態が確認可能 ・ネットワーク経由で遠隔監視と管理ができる ・フリーズした場合、自動死活監視 + 自動電源制御でのリポートが可能 復旧時間と作業工数を削減 ・薄型軽量で、盤内に設置できる ・ラック/壁/天面/床固定など場所に応じて設置形態を選べる